

社格 村社(郷社) (明治十四年十二月七日郷社格許可)
所在 下戸山村(栗太郡治田村大字下戸山)

小槻神社

祭神 於知別、命
祭日 三月二、午日

社格 村社

高野神社

祭神 大己貴命
祭日 四月初酉日

社格 村社

所在 高野村(栗太郡葉山村大字高野)

印岐志呂神社

祭神 大己貴命
祭日 四月初酉日

社格 郷社(縣社)

所在 片岡村(栗太郡常盤村大字片岡)

佐久奈度神社

祭神 潮織津姫神
祭日 四月二、午日

社格 村社

今按大祓詞に高山之末短山之末、佐久那太理、落瀧津、速川、潮、坐潮織津姫止云神云々とある神即是なり地名

を櫻谷と云によりて祭れるなるべし
神位 文徳天皇仁壽元年六月甲寅詔、以近江國散久難度、神、列於名神、清和天皇貞觀元年正月二十七日甲申奉、授、近江國從五位下佐久奈度、神、從五位上、
祭日

社格 村社(縣社)

所在 大石莊東村(栗太郡大石村大字東)

建部神社

祭神 日本武尊

今按一宮記に祭神大己貴、命とあり又一説に天、明玉、命ともあれど日本紀に初、日本武、尊娶、兩道、入姫、皇女、爲、妃、生、稻、依、別、王、云々是、犬上、君、武部、君、凡、二、族、之、始、祖也古事記に倭、建、命、娶、近、淡、海、之、安、國、造、之、祖、當、多、年、和、氣、之、女、布、多、遲、比、賣、生、御、子、稻、依、別、王、云々犬上君建部君等之祖とある安、國、造、の、近、江、に、由、ある、又、犬上、君、の、犬上、部、に、由、ある、を、思、ふ、に、建、部、神、は、き、は、め、て、建、部、君、の、祖、日本武尊なるべしさるは姓氏錄に建部、公、犬上、朝、臣、同、祖、日本武尊、之後、也とある證とすべし故今之を訂せり
神位 清和天皇貞觀二年三月辛亥朔近江國建部、神、列、於、官、社、五年六月八日己亥、授、近、江、國、正、六、位、上、建、部、神、從、五、位、下、十年七月十一日壬寅、授、近、江、國、建、部、神、從、四、位、上、醍、醐、天、皇、延、喜、元、年、四、月、十、三、日、乙、丑、近、江、國、正、四、位、下、建、部、神、奉、授、

石部鹿鹽上神社

祭神 吉比女神

今按社傳によるに倭姫世紀に倭姫命度坐時阿佐加湯多氣連等祖字加乃彦之吉比女次吉彦二人參、支爾時吉姬地口御田并麻園進云々とある字加乃彦の子吉比女を祭れるものとみえたり
祭日 四月五日

社格 村社

所在 石部村 宮山(甲賀郡石部町大字石部)

今按石部村宮山に鎮座の社を鹿鹽上神社と云祭神吉比賣神吉比古神相殿吉御子明神と云ふ其、由緒書に往古は鹿鹽谷上下二社ありしが弘仁中山崩れによりて兩社相殿となし吉御子大明神と稱すも標尾上神社と云る由を記し又同村上田の由緒書に本地佛の寺院山號は上田山鹿鹽房蓮淨寺と云て別當を勤む今兩社となる下の社を吉彦神上の社を吉姫明神と云とみえて何れをそれと定め難きに似たれ共輿地志略に上田大明神石部村にあり土俗に祭禮四月五日石部上の社と號すと云延喜式神名帳に載る鹿鹿鹽上、神社と云是なるべしと云るもの證とすべし上神社とはもと上下兩社ありて其下社は祈年幣に預り玉はぬ故に帳には記されざりしに實は吉御子明神は鹿鹽下、神社なるべしさるは志略に正一位吉御子大明神、社石部にあり云々石部下の町五町の産土神とすと云とある吉御子

矢川神社

祭神

社格 村社(縣社) (明治十三年局一六號郷社許可)

所在 森尻村(甲賀郡寺莊村大字森尻)

水口神社

祭神

今按近江輿地志略に祭神詳ならず或云五座大己貴命素盞鳴尊稻田姬武甕槌命經津主命とあれど決めがたし

神位 清和天皇正月二十七日甲申奉、授、近江國從五位下

祭日 四月卯日五月五日十一月酉日

社格 郷社

所在 水口村(甲賀郡水口町大字水口)